

2022年度 春学期講義結果報告

理学部数理学科
多元数理科学研究科

数理学科・多元数理科学研究科
3年／4年／大学院共通

応用数理 I	黒川, 鈴木	56
社会数理概論 I		
黒川 伸 (オムロン株式会社)	: 4/15, 4/22, 4/27, 5/6, 5/13	59
鈴木 晃 (シリコンスタジオ株式会社)	: 5/20, 5/27, 6/1, 6/3, 6/17	61

4年／大学院共通

幾何学統論 / 幾何学概論 I	松尾 信一郎	63
確率論 III / 確率論概論 III	吉田 伸生	65
解析学統論 / 解析学概論 I	杉本 充	67
解析学 I / 解析学概論 IV	Jaerisch, Johannes	69
代数学統論 / 代数学概論 I	中岡 宏行	71
幾何学 III / 幾何学概論 III	糸 健太郎	73
数理物理学 III / 数理物理学概論 III	浜中 真志	75
数理科学展望 III / 数理科学展望 I (その2)	谷本 祥	78

大学院

数理科学特論 I	Richard, Serge	81
----------	----------------	----

2022年度春学期時間割表（数理学科）

		1年生	2年生	3年生	4年生
月	1			代数学要論 I (中西)	代数学続論 (中岡)
	2				
	3				確率論 III (吉田)
	4				
火	1		現代数学基礎 BI (柳田)	解析学要論 I (寺澤)	解析学続論 (杉本)
	2				
	3		数学演習 III・IV (中島・泉・笹原)		解析学 I (イエーリッシュ)
	4				数理科学展望 III (ハッセルホルト・谷本・菱田)
水	1		現代数学基礎 CI (植田)	解析学要論 II (加藤)	数理解析・計算機 数学 II (木村)
	2				
	3				
	4				
木	1		複素関数論 (全学) (木村)	幾何学要論 I (太田)	幾何学続論 (松尾)
	2				
	3		数学演習 VII・VIII (大久保・佐藤)	代数学 III (ハッセルホルト)	
	4				幾何学 III (糸)
金	1			数学演習 IX, X (林(孝)・内藤)	
	2				
	3			応用数理 I (黒川・鈴木・藤本)	
	4			数学展望 I (ルガル)	
	5			数学演習 I (藤原(和)・広瀬・他4名)	

2022年度春学期時間割表（大学院）

		4年生と共通	大学院のみ
月	1	代数学概論 I (中岡)	
	2		
	3	確率論概論 III (吉田)	
	4		
火	1	解析学概論 I (杉本)	
	2		
	3	幾何学概論 IV (イエーリッシュ)	
	4	数理科学展望 I (ヘッセルホルト・谷本・菱田)	
水	1	数理解析・計算機数学概論 II (木村)	数理科学特論 I (リシャル)
	2		
	3		予備テスト基礎演習 (栗田・柳田)
	4		
木	1	幾何学概論 I (松尾)	
	2		
	3	代数学概論 III (ヘッセルホルト)	
	4	幾何学概論 III (糸)	
金	1		数理科学特論 III (バッハマン)
	2	数理物理学概論 III (浜中)	
	3	社会数理概論 I (黒川・鈴木・藤本)	
	4		

★各教員ごとに結果報告の作成が行われているので個別の内容についてはそちらを参照のこと。

A：基本データ

科目名	応用数理Ⅰ社会数理概論Ⅰ（共通分）	担当教員	・オムロン（株） 黒川 伸 ・シリコンスタジオ（株） 鈴木 晃
サブタイトル		単位	計1/計2単位 選択
対象学年	3年生・4年生・大学院		
レベル	2		
教科書	★各担当分参照のこと		
参考書	★各担当分参照のこと		
コメント	連携大学院制度に基づく講義（3回×5名によるオムニバス形式）		

TAの有無など

TAの有無
無

受講者数・合格者数の内訳

★印：対象学年	学 部				大学院			その他 (他学科等)	総数
	1年	2年	★ 3年	★ 4年	★ M1	M2	D		
学 年									
受講者数(人)	0	0	28	10	21	4	0	0	63
合格者数(人)	0	0	27	4	18	2	0	0	51

学生の参加状況

★各担当分参照のこと

B：講義内容及び引継事項

★各担当分参照のこと

C：講義方法

本講義では、毎講義後にコミュニケーションシート（別紙）を学生に記入させこれを出席のエビデンスとし次回以降の講義にできる限りフィードバックさせた。

やむを得ない欠席について出席とみなすために欠席理由書（別紙）を利用した。

また各担当の最終講義の回には講義アンケート（別紙）を学生に記入させ将来の参考資料とする。

レポート・課題等の提出は NUCT を用いて行った。

★各担当分参照のこと

D：評価方法

○評価方法

社会人との直接交流を重視し、出席点に傾斜配分する。詳細は下表のとおり。

		大学院生	学部生
オムニバス形式での最終成績決定方法		3名分全体で100点満点として評価する。	
配 分	出席点	55点 (欠席1回毎に-5点)	
	学習成果点	45点 (1教員当たり15点、3名分を合計する)	
満 点		100点：～令和1年度入学生	100点：～令和1年度入学生
成 績	S		100点～90点
	A	100点～90点	89点～80点
	B	89点～80点	79点～70点
	C	79点～70点	69点～60点
	不可	69点以下 (ただし、出席点>0)	59点以下 (ただし、出席点>0)
	欠席	出席点≤0	出席点≤0
		100点：令和2年度入学生～	100点：令和2年度入学生～
成 績	A+	95点以上	95点以上
	A	90点以上	80点以上
	B	80点以上	70点以上
	C	75点以上	65点以上
	C-	70点以上	60点以上
	不可	69点以下 (ただし、出席点>0)	59点以下
	欠席	出席点≤0	出席点≤0

★各担当分参照のこと

○最終成績はどうであったか

評価	3 年生	4 年生	M1	M2	その他	計
S	—	0	—	—	0	0
A+	5	—	4	0	0	9
A	14	0	6	0	0	20
B	7	0	6	1	0	14
C	0	4	1	0	0	5
C-	1	—	1	0	0	2
不可	1	6	3	3	0	13
欠席	0	0	0	0	0	0
合計	28	10	21	4	0	63

E：分析および自己評価

★各担当分参照のこと

A：基本データ

科目名 応用数理 I / 社会数理概論 I (その 1: 黒川分) 担当教員 オムロン株式会社
黒川 伸

サブタイトル データ分析&データドリブン交渉戦略概論・演習 単位 2 単位 選択

対象学年 3 年生 / 4 年生 / 大学院

レベル 2

教科書 自作資料を配布

参考書 講義内での紹介書籍：『ハーバード流交渉術』, 三笠書房)

コメント 連携大学院制度に基づく講義
講義日：4/15(金)、4/22(金)、4/27(水)、5/6(金)、5/13(金)

TAの有無など

TAの有無
無

受講者数・合格者数の内訳

★印：対象学年	学 部				大学院			その他 (他学科等)	総数
	1 年	2 年	★ 3 年	★ 4 年	★ M1	M2	D		
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	M1	M2	D		
受講者数 (人)	0	0	28	10	21	4	0	0	63
合格者数 (人)	0	0	27	4	18	2	0	0	51

学生の参加状況

おおよそ 40-50 名の出席者でした。

B：講義内容及び引継事項

数学的手法・思考が実際に社会で活用されているいくつかの事例を紹介したところ、

(1) 暗号理論, (2) 確率・統計に興味を示した学生の方々が複数名おりました。

C：講義方法

対面形式 (3 回), オンライン形式 (2 回)

D：評価方法

○評価方法

出席および課題提出，講義中の演習取り組みへの積極性に基づいて採点致しました。

○最終成績はどうであったか

評価	3 年生	4 年生	M1	M2	その他	計
S	—	0	—	—	0	0
A+	5	—	4	0	0	9
A	14	0	6	0	0	20
B	7	0	6	1	0	14
C	0	4	1	0	0	5
C-	1	—	1	0	0	2
不可	1	6	3	3	0	13
欠席	0	0	0	0	0	0
合計	28	10	21	4	0	63

(※上段：学部生用分布、下段：大学院生用分布)

E：分析および自己評価

講義内容と時間配分に課題があると感じており、学生の方々にも十分な時間を提供できなかった部分がありますので、今後改善して参ります。

A : 基本データ

科目名	応用数理 I / 社会数理概論 I (その 2: 鈴木分)	担当教員	シリコンスタジオ株式会社 鈴木 晃
サブタイトル	リアルタイムグラフィックスプログラミング における数学利用	単位	2 単位 選択
対象学年 レベル	3 年生 / 4 年生 / 大学院 2		
教科書			
参考書	GPU を支える技術 – 超並列ハードウェアの快進撃 (技術基礎)		
コメント	連携大学院制度に基づく講義 講義日 : 5/20(金)、5/27(金)、6/1(水)、6/3(金)、6/17(金)		

TA の有無など

TA の有無
無

受講者数・合格者数の内訳

★印：対象学年	学 部				大学院			その他 (他学科等)	総数
	1 年	2 年	★ 3 年	★ 4 年	★ M1	M2	D		
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	M1	M2	D		
受講者数 (人)	0	0	28	10	21	4	0	0	63
合格者数 (人)	0	0	27	4	18	2	0	0	51

学生の参加状況

目測で 4~50 人程度で大きな変化はなかったと思います。

B : 講義内容及び引継事項

C : 講義方法

スライドによる講義 (座学) を主体として、デモプログラムの実行や板書を補助的に利用した。

D : 評価方法

○評価方法

課題への回答内容で評価した。

○最終成績はどうであったか

評価	3 年生	4 年生	M1	M2	その他	計
S	—	0	—	—	0	0
A+	5	—	4	0	0	9
A	14	0	6	0	0	20
B	7	0	6	1	0	14
C	0	4	1	0	0	5
C-	1	—	1	0	0	2
不可	1	6	3	3	0	13
欠席	0	0	0	0	0	0
合計	28	10	21	4	0	63

(※上段：学部生用分布、下段：大学院生用分布)

E：分析および自己評価

一部に演習方式を要望する声もあった。内容を絞り込んで演習を入れるなども検討すべきかも知れない。